

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：平成30年2月9日（金）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：大熊長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 定刻になりましたので、ただいまから原子力規制庁の定例ブリーフィングを始めます。

○大熊総務課長 それでは、お手元の広報日程に基づきまして、私から補足説明を申し上げます。

まず、1ページ目、2.、2月9日金曜日、本日の会合でございます。（1）の審査会合が現在開催されているところでございます。議題は2件でございます。

まず、議題1「中部電力（株）浜岡原子力発電所の津波影響評価について」ということでございます。こちらは地震以外の原因による津波についての審査ということで、初回の議論を行っているところでございます。

続きまして、議題2は「東北電力（株）東通原子力発電所の敷地の地質・地質構造について」ということでございます。こちらは、いわゆる敷地内破砕帯の活動性評価につきまして、前回に引き続き議論を行う予定となっております。

続きまして、1ページ目中段、2月13日火曜日、（2）の審査会合についてでございます。議題は大きく3件が予定されております。

まず、1点目といたしまして、日本原電・東海第二発電所につきまして、設置許可申請に係る審査を予定しております。内容としましては、シビアアクシデント対策の有効性評価につきまして、前回議論の際のコメントへの回答を頂く。また、燃料有効長頂部の誤りの問題につきまして、対応状況について報告を聴取するという予定でございます。

その後、2件目の内容といたしまして、同じく日本原電・東海第二発電所につきまして、運転延長の申請に係る審査ということで、内容としましては、同じく燃料有効長頂部の誤りの問題についての対応の状況についての報告を受けるということを予定しております。

その後、3件目の内容といたしまして、東北電力・女川第二原子力発電所につきまして、防潮堤設計方針などにつきまして、前回の議論を踏まえた方針について説明をお聞きするというのを予定しております。

時間としては長時間を予定しておりますが、最初に申し上げた2件が午前中ぐらいになり、3件目は午後ぐらいになるのではないかと見込まれます。

続きまして、2ページ目、（5）、こちらは2月14日水曜日になりますが、特定原子力施

設監視・評価検討会の第58回の会合が午後に予定されております。議題は主に3件予定されております。

まず、議題1といたしまして、1Fの中期的リスクの低減目標マップの改訂についてということで、中期的リスクの低減目標マップにつきまして前回も議論したところですが、その議論を踏まえて修正した案をお示しし、議論いただくということを予定しております。

続きまして、議題2といたしまして、建屋滞留水処理の進捗状況につき、状況の報告を受ける予定でございます。

また、議題3といたしまして、地下水及び雨水流入対策の現状ということで、こちらにつきましても状況の報告の説明を受けるということを予定しているところでございます。

続きまして、2ページ目上段ですが、2月15日木曜日、(6)の会合でございます。こちらは、放射線対策委託費に関します第1回の研究評価委員会が午後に予定されております。こちらは、放射線安全規制研究につきまして、その研究成果の評価を行うための委員会ということで、その第1回の会合ということになるものでございます。伴委員が対応するほか、外部の有識者で構成される委員会ということでございます。初回になりますので、議題といたしましては3件予定されております。

まず、議題1といたしまして、この委員会の趣旨・目的について確認を行った上で、議題2といたしまして、採択課題の評価に関しまして、評価の枠組みや方針などについて議論いただくという予定でございます。その上で、議題3としまして、研究成果報告会の実施につきまして説明をするということを予定しております。

最後に、1ページおめくりいただいて、3ページ目になりますが、現地視察の予定が1件新たに入っております。

関西電力・大飯発電所3号機重大事故等発生時に対する総合訓練の実施に伴う現地視察ということでございまして、山中委員ほか視察を行う予定でございます。こちらは大飯発電所3号機におきまして、同日2月15日に重大事故等に対する総合訓練が行われるという予定でございます。その訓練の状況について視察を行うということを予定しているものでございます。

私からの御説明は以上です。

<質疑応答>

○司会 皆様からの質問をお受けします。いつものとおり、所属と名前をおっしゃってから質問の方をお願いいたします。

それでは、質問のある方は手を挙げてください。ヒガシヤマさん。

○記者 朝日新聞、ヒガシヤマです。

一部報道なのですけれども、いわゆる情報公開のところで2年半ほど滞っていたという

のがありましたけれども、ちょっと御説明いただけると幸いなのですが。

○大熊総務課長 その報道は承知しております。情報開示請求を受けて開示した文書について、ホームページ上での掲載期間があいていたという報道のことであると思います。

経緯も含めてちょっと御説明させていただきますと、改めて申し上げるまでもございませんが、私ども原子力規制庁としては透明性というものを極めて重視しているということでございまして、その一環として、政府共通のルールを超えた取組、規制庁独自の取組ということで、情報開示請求を受けて開示した文書、原子力規制関係の文書ということでございますけれども、これについて、必要な手続を踏んで順次ホームページ上に掲載していこうと、こういう方針を決めまして、今から4年ほど前になると思いますが、このブリーフィングの場で発表させていただいたということでございます。

その後、順次対応を進めてきているというところでございますけれども、ホームページ上での開示に当たりまして、様々な関連の作業・手続がございまして、そちらに時間を要してしまった面がございまして、掲載の間隔があいてしまったということでございます。

私どもの透明性重視という方針に変わりはありませんので、引き続き手続を進めて、準備が整ったものから順次ホームページ上への掲載ということを進めていきたいと考えております。

○記者 手続に時間がかかったということなのですが、どのような手続に時間がかかったということなのでしょうか。

○大熊総務課長 情報開示請求があって開示をした文書ということがまず出発点なのですが、情報開示による開示とホームページ上での公開ということになると、やはり性格が異なっておりますので、作業・手続として必要なものが出てまいります。例えば、システム上の容量といった問題もございましたし、それ以上に、ウェブ上での開示ということになりますと、著作権の許諾を得るということが必要になってまいりまして、内容を全部確認して、必要な関係者に個々に了解を得るといったようなことも必要になります。そうした作業・手続で時間がかかってしまったということでございます。

○記者 ちなみに、この著作権というのは、審査にかかわるということですので、いわゆる相手が公の国の機関とかであれば、著作権とかがあるのかもしれないですが、例えば電力会社だったりすると、了解を得ないといけないという、そういうことになるわけですか。

○大熊総務課長 そうですね。民間企業ではもちろん必要になりますし、あるいはそういった許認可に直結しないものでも、例えば、有識者の方がどこかで示した文章とか、我々に示してくれた資料とか、そういったもの、あるいは、例えば、写真の類いでも御理解いただきやすいかと思いますが、そういったいろいろな情報についてウェブ上で公開ということになると、確認・許諾を得るということが必要になってくるものが多々あるということでございます。

○記者 あと、システムの容量のところなのですが、これは一言で言うと、テクニカルに解決できる話だと思うのですが、ただし、お金がかかるということで、何か予算措置みたいなものを考えていらっしゃるのでしょうか。

○大熊総務課長 システム上の容量の問題は、おおむね対応できたところがございますので、これについては、今後は大きな問題にはならないのではないかと考えております。

○記者 ありがとうございます。

○司会 ほか、御質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。フジオカさん。

○記者 NHKのフジオカです。

関連した質問なのですが、情報公開請求の開示の期間が、以前公開したものと昨日公開したものと間で2年5ヶ月ほどの期間があいている状態なのですが、その期間については、どのように規制庁の方では捉えていますか。

○大熊総務課長 今の御質問は、情報公開請求に対する開示の期間とおっしゃいましたけれども、そうではなくて。

○記者 ホームページの掲載です。

○大熊総務課長 ホームページ上の掲載の期間ですね。そうですね。今申し上げたように、鋭意作業をしてきて、順次掲載していくという方針で取り組んでいるところなのですが、その中で時間があき過ぎてしまった面はあると考えております。今後、引き続き作業をして、準備が整ったものから掲載ということに取り組んでいきたいと思っております。

○記者 これは遅れとか、作業の滞りとかというような認識というのは持たれていらっしゃるのですか。

○大熊総務課長 なかなか膨大な文書についてのチェック等々が必要になってまいりますので、全て一括してということはなかなか難しい面がございます。優先順位の高いもの、皆様の関心の高いもの、多くの方から情報開示請求があったものなど、そういうものから優先して順次取り組んでいくということを考えていきたいと思っております。

○記者 1点だけ、済みません。再発防止といたしますか、今後の掲載に向けてなのですが、順次掲載ということで、例えば、もっとペースを速めていきたいとか、あるいはスケジュール感をもう少し考えていきたいとかというようなお考えは、今のところ、ございますか。

○大熊総務課長 そうですね。今も申し上げましたけれども、やはり優先順位の高いものからしっかり対応して、作業をしていくということを引き続きやっていくということでも今考えております。

○司会 ほか、ございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。お疲れさまでした。

